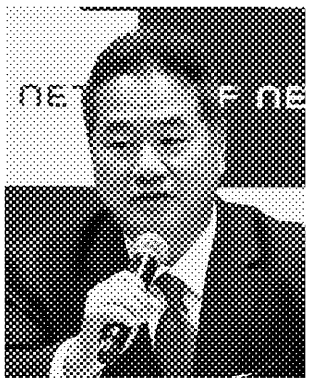
人材派遣の海外展開加速

アイエスエフネット シンガポールに新会社

アイエスエフネット（東京都港区、渡辺幸義社長）は7日、IT人材派遣・紹介事業の海外展開を加速するため、シンガポールに新会社「GLOBAL ISF」を設立したと発表した。資本金は500万円。今後、約20億円を投じ、2030年に150人体制で売上高約30億円を目指す。

クラウド、ネットワーク、セキュリティーの三つのインフラ領域で人材を集める。日本からは海外での経験を望む技術者を駐在型で現地に派遣し、アジアに進出する日系企業や現地企業のニーズに応える。

このため日本語・英語、韓国語・英語など、バイリンガルの技術者を積極的に採用する計画。併せて、英語を話せて日本に興味を持つシンガポールの技術者の現地採用も行う。



会見する渡辺社長

同日、現地で会見した渡辺社長は「シンガポールをハブ（中継点）として、グローバルで新成長を目指す」と強調。加えて「日本の技術者に労働対価の高い海外でビジネスに取り組んでもらうことで、賃金報酬を上げていく」とし、円安が進む中で賃金の高い海外勤務を望む技術者のニーズが背景にあることも示唆した。

また、「将来の構想としては国を問わず、働きたい場所でスキルに合った仕事ができる環境をウェブ活用も含めて、10年後には実現したい」と抱負を語った。

同社はITインフラ技術者を2100人抱え、国内でビジネス基盤を築いている。人材派遣の海外展開では韓国で実績を持ち、新会社は韓国の現地子会社とも連携する。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社